
一般社団法人 全国さく井協会 令和元年度臨時社員総会 いい井戸の日 2019 in 四国 盛会裏に終了

令和元年 11 月 7 日に、高知市のザ クラウンパレス新阪急高知において 200 社（委任状含む）の参加で、令和元年度 全国さく井協会 臨時社員総会及びいい井戸の日 2019 in 四国 テーマ『南海トラフ地震に備えて 防災井戸の役割』が開催された。



臨時総会で挨拶する協雅史会長

臨時社員総会において、協雅史会長より「今年は台風被害で河川が破堤するなど、自然災害が多く発生している。これからの災害対策などを活発に議論し、リスク低減に備えるとともに、避難所などで防災井戸を設置して、水確保に少しでも貢献していこう」と挨拶があった。

議案では前期(4～9月)事業報告が原案通り承認された。その中には、さく井・改修工事標準歩掛資料（令和2年度版）の改訂に入っていること、地下水利用設計管理技術者資格制度の準備が進んでおり、この12月には日程、開催場所の公開予定、登録基幹技能者の評価基準が決められたことなどの説明があった。また、新規入退会各社の紹介があり、会員数は正会員 229 社、賛助会員 87 社、計 316 社となった。



臨時総会会場

いい井戸の日 2019 in 四国を開催し、展示ブースコーナーでは 19 の企業や団体が自社の製品や技術を紹介し多くの参加者で賑わった。

記念講演会では、岩隈一幸九州支部長が「防災井戸～国土強靱化への第一歩～」と題し、自らの熊本地震での被災体験から被災地での生活用水確保の実態を話された。井戸からは“きれいな水”が得られるが、揚水動力に電気が使われており、電気がストップした時の発電機の限界、地上の貯水設備は限界がある。いつ、どこで水が得られるのか周知とその情報伝達方法、火災消火用水の確保方法の重要性など、経験者目線の話は有意義だった。

石塚学北海道支部長は「熊本地震井戸被害調査」と題し、自ら調査をまとめた結果より熊本市内の地震による井戸の被害発生率は 2.5%と低かったこと、井戸は地震に強いから地域防災計画に地下水の優位性を活かすべきと述べた。講演会に自治体から参加していた方には、頷いている方も多かった。



賑わうブース



説明に聞き入る来場者

午後 6 時から同ホテル内で関係者 143 名の参加で懇親会が開かれ、脇雅史会長は「井戸は飲料水や生活用水とともに温泉、消雪、消火など生活を支える大切な役割を担っている。さく井協会の認知度の更なる向上に努めよう」と挨拶があり、田村孝治四国支部長は「今日の“いい井戸の日”は南海トラフ地震への備えや防災意識の向上を目的に行った。講演会の講師 2 名の話は経験談であり役だったことと思う。次は土佐の料理とお酒を堪能していただきたい」と挨拶した。

アトラクションとして、芸妓さんの舞踊、よさこい踊りが披露され、会場は大いに盛り上がった。

最後に、次回開催地の九州支部会員が舞台に上がり「来年は熊本でお待ちしております」と締めくくった。



懇親会会場

翌日の懇親ゴルフコンペは 44 名の参加で、高知黒潮カントリークラブで行われ、中央支部・明間高遠氏が優勝した。

臨時総会、いい井戸の日 201 in 四国、懇親会、ゴルフコンペとご参加頂きました皆様お疲れ様でした。また、四国支部の皆様及び、いい井戸の日 2019 in 四国 実行委員会の皆様には準備から当日の会場設営など大変お世話になり改めてお礼を申し上げます。